

発足10周年 南消防団のあゆみ



令和2年(2020年)3月
南消防団発足10周年記念委員会



平成22年 発足当時の幹部



令和元年10月の幹部

南消防団発足10周年にあたり



南消防団長 涌井 正夫

平成22年4月、南消防団は発足しました。寿・大岡の合併に至る経緯は、語り尽くせない程大変だったと思います。初代南団長に就任した旧大岡の紙透団長、そして旧寿の岡安団長の御苦勞は配下団員を一つにすることを持っても、膨大なエネルギーが必要だったと思います。舵を切っていただいた南消防署の御尽力にお礼申し上げます。

昨年度、念願であった団員定数100パーセントを達成しました。この結果は区連会はじめ地域のお力添えあつてのことであり、大いに感謝する次第であります。現在、地域防災の活性化につながる若年団員入団など少しずつ実績につなげているところです。また、団員を支える家族の御理解も欠かせない要素であると考えます。10年は一つの節目ですが、20、30年後の南消防団のさらなる発展を祈念しております。

〈南消防団の発足 ～前身としての寿消防団と大岡消防団〉

沿 革

- 寿消防団は大正11年に当初寿消防組として、大岡消防団は昭和14年に大岡警防団としてそれぞれ発足。
- 昭和23年3月、横浜市の機関として南区に寿消防団ならびに大岡消防団がそれぞれ組織される。
- 平成22年4月、寿消防団と大岡消防団の二つの消防団が統合し南消防団誕生。

統合に際して

この歴史と伝統ある二つの消防団を統合するため、複数年にわたり両消防団幹部で将来の消防団のあり方や、統一に向けての話し合いを重ねてきました。区内で2つの消防団を統合することにより、区民の方々にとって分かりやすい消防団組織となること、及び指揮命令系統を一本化することができ、大規模災害発生時の迅速な対応が期待されるものです。

南消防団発足10周年を祝して

「南の風はあったかい」

南区長 松山 弘子



南消防団が発足10周年を迎えられましたことを心からお慶び申し上げます。

昨年度、南消防団の発足以来初となる、団員充足率100%を達成されました。地域防災力の向上に日夜取り組まれている皆様の活動が、地域に密着した企業の皆様や、学生をはじめとした若い世代の共感を呼び、成し遂げられた快挙であると感じております。

南消防団の皆様が、地域の安全・安心の実現に向け、御尽力されていますことに敬意を表するとともに、区役所も皆様と力を合わせ、地域連携の絆をより深めながら、「南の風はあったかい」と感じていただける区政運営に引き続き取り組んでまいります。

団員の皆様の御健勝とますますの御活躍をお祈り申し上げます。

「地域防災の担い手として期待」

南区連合町内会長連絡協議会 会長 吉井 肇



平成22年4月、大正11年発足の寿消防組と昭和14年発足の大岡警防団の流れを汲む2つの組織が統合、永い歴史を刻み込んだ地域防災の担い手であった先達の御尽力に、元寿消防団員として関係者の皆様に深く敬意を表します。

さて、現在の南消防団としては、市内他消防団に比べ、歴史は浅いですが、区民にとっては、組織統合され、団長の指揮命令系統も一本化され、震災等大規模災害時の迅速な活動が期待される場所であり、区民には親しみやすい存在になったのではないのでしょうか。

今後も自治会町内会防災担当者への御示唆をお願いするとともに、災害に強いまちづくりへの御支援御協力をお願い申し上げます。

「歴史と伝統を未来へとつなげて」

南消防団OB会 会長 望月 昭



平成22年に南消防団が発足し10年の経過は、私の実感ではまことに早いものと感じている次第です。このたびはおめでとうございます。

想えば、永い伝統と歴史ある2つの団組織が1つになる困難さは、我々消防団もさることながら消防署の御苦勞もあったことと思います。

私共、OB会も賛助会員を含め38人ですが、定年退団で引退しても元気いっぱい、これからも南消防団員の皆様の支援を続けていきたいと考えております。

南区を愛する多くの方々が、自助・共助のもと消防団の皆様と力を合わせ、地域連携の絆をより深く、より強固にしていきたいと考えております。

消防団員皆様のこれからの御活躍を祈念し、祝辞とさせていただきます。

「躍進する南消防団」

南消防署長 小出 健



南消防団発足10周年を心よりお祝い申し上げます。

南消防団が誕生するまでの2年間、当時の南消防署庶務課長として勤務し、統合に向けた消防団幹部の皆さんの御苦勞を見てきましたので、ひととき感慨深く思います。

10年を振り返りますと声楽隊の発足、女性団員、学生団員、消防団協力事業所の大幅な増加による消防団活動の充実など大きな躍進を遂げました。

2018年11月に初の団員充足率100%を達成し、団員を大幅に増加させた功績により総務大臣感謝状及び消防庁長官表彰が贈呈されるなど全国から注目される消防団となりました。

今後も南消防団と南消防署が車の両輪として連携し、南区の安全を守っていく所存です。ですので引き続き区民の皆様の御支援をお願いいたします。

南消防団担当区域図

第四分団 (71名)

- 第1班 井土ヶ谷下町
- 第2班 井土ヶ谷上町、井土ヶ谷中町
- 第3班 永田東一丁目の一部、永田東二・三丁目、永田みなみ台
- 第4班 永田北一・二・三丁目、永田台



第六分団 (72名)

- 第1班 別所一・二・三・四・五・六・七丁目、別所中里台
- 第2班 中里一・二・三・四丁目
- 第3班 永田南一・二丁目、永田山王台、永田東一丁目の一部
- 第4班 六ツ川一・二・三・四丁目



第五分団 (57名)

- 第1班 若宮町、通町、中島町、大橋町、大岡一丁目の一部
- 第2班 弘明寺町、中里町
- 第3班 大岡一丁目の一部、大岡二・三・四・五丁目



南消防団本部(10名)



第一分団 (50名)

- 第1班 西中町、前里町、白金町、三春台、伏見町
- 第2班 南太田一・二・三・四丁目
- 第3班 清水ヶ丘、庚台



第二分団 (69名)

- 第1班 高根町、白妙町、浦舟町、万世町
- 第2班 永楽町、真金町
- 第3班 中村町、八幡町、山谷
- 第4班 平楽、唐沢



第三分団 (64名)

- 第1班 花之木町、宿町、宮元町、共進町、蒔田町、榎町、東蒔田町、大岡一丁目の一部
- 第2班 日枝町、南吉田町、山王町、吉野町、新川町、二葉町、高砂町
- 第3班 睦町、堀ノ内町



これまでの主な活動

平成22年(2010)

- ・南消防団の発足
- ・「南消防団だより」第一号発行
- ・大規模災害対応訓練（蒔田中学校）



H22

大規模災害対応訓練

平成23年(2011)

- ・3月 東日本大震災発災

平成24年(2012)

- ・女性部会発足

平成25年(2013)

- ・消防団による遠距離送水訓練（横浜港耐震突堤）
- ・「消防団を中核とした地域防災力の充実強化に関する法律」制定、この頃から消防団に新規装備導入が増加。



H25

横浜港での遠距離送水訓練

平成26年(2014)

- ・遠距離大量送水システム訓練（南区内）
- ・「もう一つの顔」ポスター制作
- ・救出・応急救護チーム結成



【H27】南消防団主催「防災のつどい」

平成27年(2015)

- ・南消防団声楽隊結成
- ・南消防団主催「防災のつどい」（旧南公会堂）

平成28年(2016)

- ・2月 南区役所・南消防署・南消防団本部新庁舎（浦舟町）に移転
- ・南消防団主催「あったかハートコンサート」（新南公会堂）

平成29年(2017)

- ・低水位ストレーナーによる取水訓練実施（大岡川／弘明寺付近）
- ・学生消防団員認証制度施行

平成30年(2018)

- ・新しい団員用防火衣および女性団員制服の導入開始
- ・11月 団員定数395名の充足を達成

平成31・令和元年(2019)

- ・南消防団発足10年を迎える。



平成28年1月5日、旧南消防署における最後の出初式での一斉放水訓練風景



H22

訓練指導者講習会 (左上)



H25



H31

消防訓練センターでの震災対策訓練、救出救護活動



H27



H26

【H26】南消防団
救出救護チーム編成 (左2点)



【H27】南消防団声楽隊編成 (上は「南消防団防災のつどい」演技、右は夏季訓練会におけるデビュー時。



H26



H27

「南消防団防災のつどい」における活動紹介風景



H28

中村小における「横浜市総合防災訓練」参加



H29

住民に対する防災指導
この2点はH29の「2017南消防団フェア」にて。



H25

春季・秋季ならびに歳末の夜間巡回広報
(写真はH25歳末夜間巡回時一コマ)



H23 訓練礼式



H23 消防ポンプ操法



H23 救出・救難(展示)



H25 消防ポンプ操法

夏季訓練会成績一覧

年次	ポンプ操法	訓練礼式	救出救護+基本結索
平成22年	(全訓練種目展示のみ実施)		
平成23年	第五分団*	(展示)	(展示)
平成24年	第六分団	第五分団	第六分団
平成25年	第五分団*	第五分団	第四分団
平成26年	第三分団	第五分団	第三分団
平成27年	第二分団*	(展示)	(展示)
平成28年	第五分団	第二分団	第二分団
平成29年	第三分団*	第五分団	第五分団
平成30年	第五分団	(展示)	(展示)
平成31年	第六分団*	(展示)	(展示)



H25 訓練礼式



H24 消防ポンプ操法



H29 訓練礼式



H29 器具結索



H25 市操法大会 5分団



H29 市操法大会 3分団



H23 市操法大会 5分団



H29 市操法大会 3分団



H27 市操法大会 2分団

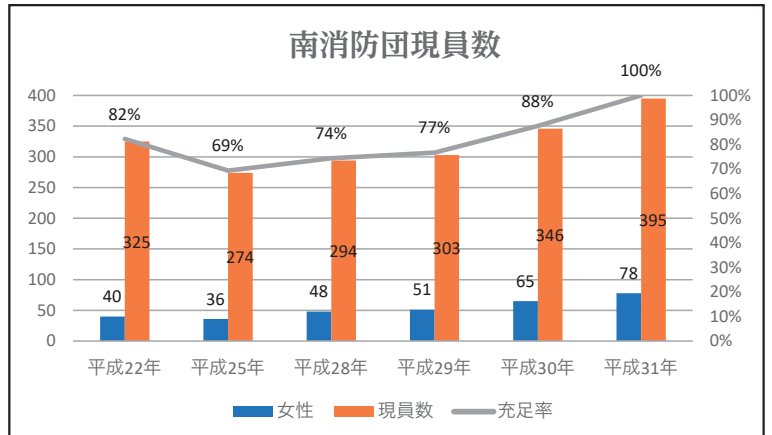
(注) ※は隔年で秋季に横浜市消防訓練センター(戸塚区)で行われる「横浜市消防操法技術訓練会」(通称:市操法大会)参加

南消防団 歴代幹部名簿

平成(H)	H22年4月1日		H23年4月1日		H24年4月1日	H26年4月1日	H28年4月1日	H29年4月1日	H30年4月1日	H31年4月1日
団 長	紙透 照男		紙透 照男		河野 正敏	河野 正敏	河野 正敏	河野 正敏	涌井 正夫	涌井 正夫
副 団 長	鈴木 亨昌	荒井 修三	鈴木 亨昌	荒井 修三	涌井 正夫	涌井 正夫	涌井 正夫	涌井 正夫	有賀 和彦	有賀 和彦
	安藤 政彦	河野 正敏	安藤 政彦	河野 正敏	有賀 和彦	有賀 和彦	有賀 和彦	有賀 和彦	山田 光明	山田 光明
本 部 部 長	涌井 正夫	有賀 和彦	涌井 正夫	有賀 和彦	金子 裕	金子 裕	金子 裕	金子 裕	金子 裕	金子 裕
	金子 裕	服部 武彦	金子 裕	服部 武彦	河野 紀久	河野 紀久	河野 紀久	増田 富義	増田 富義	増田 富義
	五十嵐 勝	田中 正	五十嵐 勝	田中 正	杉山 知子	杉山 知子	増田 富義		菅原 義彦	菅原 義彦
	小森 稔	阿部 實	小森 稔	阿部 實		吉井 肇				石原 三恵
第一分団長	宮本 弘二		濱中 孝夫		濱中 孝夫	濱中 孝夫	濱中 孝夫	濱中 孝夫	濱中 孝夫	濱中 孝夫
第二分団長	鈴木 國男		中丸 秀之		中丸 秀之	山田 光明	山田 光明	山田 光明	秋元 寛	秋元 寛
第三分団長	鋤柄 重幸		廣瀬 征夫		廣瀬 征夫	廣瀬 征夫	田中 肇	田中 肇	田中 肇	田中 肇
第四分団長	河野 紀久		河野 紀久		小澤 秀行	小澤 秀行	紙透 幸雄	紙透 幸雄	紙透 幸雄	紙透 幸雄
第五分団長	細野 純司		細野 純司		小川 勇	小川 勇	小川 勇	小川 勇	小川 勇	小川 勇
第六分団長	上野 隆司		上野 隆司		忠田 伸一	忠田 伸一	菅原 義彦	菅原 義彦	坂本 勝	坂本 勝

人員数の推移

南消防団年度別現員数 条例定数 395人			
年月日	現員数	充足率	内女性団員
平成22年4月	325人	82%	40人 12%
H25年4月	274人	69%	36人 13%
H28年4月	294人	74%	48人 16%
H29年4月	303人	77%	51人 17%
H30年4月	346人	88%	65人 19%
H31年4月	395人	100%	78人 20%



これまでの叙勲、褒章受章者

叙 勲 瑞宝双光章及び瑞宝単光章			
受章年	階 級	氏 名	所 属
平成23年春	元団長(双光章)	岡安 勝已	寿 団本部
H23年秋	元副団長	望月 昭	大岡団本部
H24年春	元分団長	鈴木 敏夫	大岡団本部
H24年秋	元分団長	山下 光治	寿第六分団
H24年秋	元 団長	紙透 照男	南 団本部
H25年秋	元分団長	鋤柄 重幸	南第三分団
H26年春	元分団長	南 信一郎	寿第三分団
H26年春	元副団長	安藤 政彦	南 団本部
H27年春	元分団長	小儀 一長	寿 団本部
H27年春	元分団長	鈴木 國男	南第二分団
H27年秋	元 副団長	鈴木 亨昌	南 団本部

叙 勲 瑞宝単光章			
受章年	階 級	氏 名	所 属
H28年秋	元副団長	荒井 修三	南 団本部
H29年春	元分団長	齋藤 勲	寿 団本部
H30年春	元分団長	上野 隆司	南第六分団
H30年秋	元分団長	田中 正	南 団本部
令和元年春	元 団長	河野 正敏	南 団本部
褒 章 藍受褒章			
受章年	階 級	氏 名	所 属
平成24年春	副団長	河野 正敏	南 団本部
H25年春	副団長	涌井 正夫	南 団本部
H28年秋	分団長	濱中 孝夫	南第一分団
令和元年春	副団長	山田 光明	南 団本部

南消防団のこれまでの受賞

総務大臣感謝状（右）

「積極的な活動により消防団員の確保を通じた地域防災体制の充実や地域の安心安全の確保に寄与」として平成30年に受賞。



消防庁長官表彰（左）

「日ごろから地域に密着した活動を積極的に行うことにより、地域防災力の向上に寄与」として、令和元年に受賞。



カントウジュ 竿頭綬（右）

(財)日本消防協会より「防災思想の普及、消防施設の整備その他の災害の防ぎよに関する対策の実施についてその成績が前項の消防機関に準ずる消防機関」として平成28年度に受賞（竿頭綬とは、団旗の旗竿の頂部に括り付ける赤い短冊状のバナーです）。



表彰旗（左）

(財)神奈川県消防協会より「防災思想の普及、消防施設の整備その他の災害の防ぎよに関する対策の実施についてその成績特に優秀な団体」として、平成28年度に受賞。

南消防団発足10周年記念誌

編集・制作：南消防団発足10周年記念委員会 令和2年（2020年）3月1日発行

（協力：横浜市南消防署庶務課）

（本印刷物中の文、写真ならびに図表等の著作権は横浜市南消防団広報委員会に属します）